

数学演習第二 (演習 第 10 回)

微積 : 重積分 [1] (重積分の定義 , 累次積分)

2022 年 1 月 5 日 実施

- 小テストの問題は [1] の 4 問です . レポート課題は [2] の 4 問です .
- それ以外の問題は自習用問題です (こちら是非解いてください) .
- 要点もよく読むこと . また , 問題を解く際には 積分領域をかならず図示してみること .
- レポート課題の答案には答えだけでなく途中の計算も書いてください .

【要点】

- 累次積分の定義 (微積教科書 pp. 109–110)

– $\varphi_1(x), \varphi_2(x)$ は有界閉区間 $[a, b]$ で連続であるとする .

$D = \{(x, y) \mid a \leq x \leq b, \varphi_1(x) \leq y \leq \varphi_2(x)\}$ の場合 (x に関して単純な領域の場合)

まず , x を固定して , 連続関数 $f(x, y)$ を y について $\varphi_1(x)$ から $\varphi_2(x)$ まで積分する :

$$F(x) = \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy \quad (x \in [a, b])$$

このとき , $F(x)$ は有界閉区間 $[a, b]$ で連続であることが示される (例えば , 宮島 静雄 著 『微分積分学 II - 多変数の微分積分 - 』 , 共立出版 , 2003. の命題 4.23 参照) . よって , 微積教科書の定理 3.4.1 から , $F(x)$ は有界閉区間 $[a, b]$ で積分可能である . そこで , $F(x)$ を a から b まで積分したものを $\int_a^b F(x) dx$ を

$\int_a^b dx \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy$ で表す .

– $\psi_1(y), \psi_2(y)$ は有界閉区間 $[c, d]$ で連続であるとする .

$D = \{(x, y) \mid c \leq y \leq d, \psi_1(y) \leq x \leq \psi_2(y)\}$ の場合 (y に関して単純な領域の場合)

x に関して単純な領域の場合と同様に , 連続関数 $g(x, y)$ を x について $\psi_1(y)$ から $\psi_2(y)$ まで積分したものを

$G(y) = \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} g(x, y) dx$ を , さらに c から d まで積分したものを $\int_c^d G(y) dy$ を $\int_c^d dy \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} g(x, y) dx$ で

表す .

– $\int_a^b dx \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy$ と $\int_c^d dy \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} f(x, y) dx$ をまとめて 累次積分 (iterated integral, repeated integral) という . ただし , “単純な領域” という用語は一般的でない (そのような言い方は余り普及していない) .

- 累次積分と 2 重積分の関係 (微積教科書 pp. 111–112)

– D が (x または y に関して) 単純な領域の場合には累次積分と 2 重積分の値は一致する . すなわち , D が x に関して単純な領域の場合には

$$\iint_D f(x, y) dx dy = \int_a^b dx \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy \quad \cdots \quad (\text{イ})$$

となり , D が y に関して単純な領域の場合には

$$\iint_D f(x, y) dx dy = \int_c^d dy \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} f(x, y) dx \quad \cdots \quad (\text{ロ})$$

となる . ただし , $f(x, y), \varphi_1(x), \varphi_2(x), \psi_1(y), \psi_2(y)$ は連続関数とする .

– 例 1 (微積教科書 p. 115, 2 (3))

$D = \{(x, y) \mid x^2 + y^2 \leq 1, x \geq 0\}$ のとき $\iint_D x dx dy$ を求める . D を x に関して単純な領域で表すと ,

$D = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq 1, -\sqrt{1-x^2} \leq y \leq \sqrt{1-x^2}\}$ となるので ,

$$\iint_D x dx dy = \int_0^1 dx \int_{-\sqrt{1-x^2}}^{\sqrt{1-x^2}} x dy = \int_0^1 x \cdot 2\sqrt{1-x^2} dx = -\frac{2}{3} \int_0^1 \{(1-x^2)^{\frac{3}{2}}\}' dx = \frac{2}{3}$$

を得る．また， $D = \{(x, y) \mid -1 \leq y \leq 1, 0 \leq x \leq \sqrt{1-y^2}\}$ のように， y に関して単純な領域でも表すことができるので，

$$\iint_D x \, dx \, dy = \int_{-1}^1 dy \int_0^{\sqrt{1-y^2}} x \, dx = \int_{-1}^1 \frac{1-y^2}{2} dy = \int_0^1 (1-y^2) dy = \frac{2}{3}$$

と計算してもよい．

－例 2 (微積教科書 p. 115, 2 (7))

3 変数関数 $f(x, y, z)$ の場合にも同様に累次積分を定義することができ，それを利用して 3 重積分を計算することができる．例えば， $D = \{(x, y, z) \mid 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1-x, 0 \leq z \leq 1-x-y\}$ のとき $\iiint_D z \, dx \, dy \, dz$ を計算してみると，

$$\begin{aligned} \iiint_D z \, dx \, dy \, dz &= \int_0^1 dx \int_0^{1-x} dy \int_0^{1-x-y} z \, dz = \int_0^1 dx \int_0^{1-x} \frac{(1-x-y)^2}{2} dy \\ &= \int_0^1 \frac{(1-x)^3}{6} dx = \frac{1}{24} \end{aligned}$$

となる．

● 累次積分の積分順序の交換 (微積教科書 p. 113)

－例 3 (微積教科書 p. 115, 3 (1))

累次積分 $\int_{-1}^1 dx \int_0^{2\sqrt{1-x^2}} f(x, y) \, dy$ の積分順序を交換する．すなわち，先に y で積分して後に x で積分したものを，先に x で積分して後に y で積分する形に書き換える．

$D = \{(x, y) \mid -1 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 2\sqrt{1-x^2}\}$ とおくと，累次積分と 2 重積分の関係 (イ) より，

$$\iint_D f(x, y) \, dx \, dy = \int_{-1}^1 dx \int_0^{2\sqrt{1-x^2}} f(x, y) \, dy$$

が成り立つ．一方， D は $D = \{(x, y) \mid 0 \leq y \leq 2, -\sqrt{1-(y^2/4)} \leq x \leq \sqrt{1-(y^2/4)}\}$ とも表されるので，累次積分と 2 重積分の関係 (ロ) より，

$$\iint_D f(x, y) \, dx \, dy = \int_0^2 dy \int_{-\sqrt{1-(y^2/4)}}^{\sqrt{1-(y^2/4)}} f(x, y) \, dx$$

が成り立つ．以上より，

$$\int_{-1}^1 dx \int_0^{2\sqrt{1-x^2}} f(x, y) \, dy = \int_0^2 dy \int_{-\sqrt{1-(y^2/4)}}^{\sqrt{1-(y^2/4)}} f(x, y) \, dx$$

となり，積分順序を交換することができた．

－例 4 (微積教科書 p. 115, 3 (2))

累次積分 $\int_{-2}^1 dx \int_{x^2}^{-x+2} f(x, y) \, dy$ の積分順序を交換する． $D = \{(x, y) \mid -2 \leq x \leq 1, x^2 \leq y \leq -x+2\}$ とおく． D を y に関して単純な領域の形で表すと，次の 2 つの領域に分割される ($D = D_1 \cup D_2$) ．

$$\begin{aligned} D_1 &= \{(x, y) \mid 0 \leq y \leq 1, -\sqrt{y} \leq x \leq \sqrt{y}\}, \\ D_2 &= \{(x, y) \mid 1 \leq y \leq 4, -\sqrt{y} \leq x \leq 2-y\}. \end{aligned}$$

よって，

$$\begin{aligned} \int_{-2}^1 dx \int_{x^2}^{-x+2} f(x, y) \, dy &= \iint_D f(x, y) \, dx \, dy = \iint_{D_1} f(x, y) \, dx \, dy + \iint_{D_2} f(x, y) \, dx \, dy \\ &= \int_0^1 dy \int_{-\sqrt{y}}^{\sqrt{y}} f(x, y) \, dx + \int_1^4 dy \int_{-\sqrt{y}}^{2-y} f(x, y) \, dx \end{aligned}$$

となる．記法の注意として， $D_1 \cap D_2 \neq \emptyset$ なので， $D = D_1 + D_2$ と表記するのは適切でない．

● 空間図形の体積（微積教科書 p.129）

– \mathbb{R}^3 内の空間図形 V の体積 $v(V)$ は， V を平面 $x = t$ で切ったときの断面積 $S(t)$ を t について積分して求められる場合がよくある．ただし， t は断面が空集合にならない範囲を動く．

– 例 5（球の体積）

xyz 空間内において，原点中心，半径 $r > 0$ の球面で囲まれた部分を B とし， B の体積 $v(B)$ を求める． B を平面 $x = t$ で切ったときの断面は円： $y^2 + z^2 = r^2 - t^2$ なので，断面積 $S(t)$ は $S(t) = \pi(r^2 - t^2)$ となる．また， t の動く範囲は $-r \leq t \leq r$ である．よって，

$$v(B) = \int_{-r}^r S(t) dt = 2\pi \int_0^r (r^2 - t^2) dt = \frac{4}{3}\pi r^3$$

を得る．

【注】断面積を求める際には平面 $y = t$ や平面 $z = t$ で切ってもよい．計算しやすいものを選択すること．ただし，一般に，切り方を変えると断面積 $S(t)$ や t の動く範囲も変わるので注意する．

【小テスト：オンライン受験】

1 $D = \{(x, y) \mid y \leq 0, x^2 + y^2 \leq 1\}$ ， $f(x, y)$ は D で連続であるとし， $I = \iint_D f(x, y) dx dy$ とする．

(1) $I = \int_a^b dx \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy$ と表したとき，次の（ア）から（エ）の中から正しいものを すべて 選べ．

（ア） $a = 0$ （イ） $b = 1$ （ウ） $\varphi_1(x) = -\sqrt{1-x^2}$ （エ） $\varphi_2(x) = 0$

(2) $I = \int_c^d dy \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} f(x, y) dx$ と表したとき，次の（ア）から（エ）の中から正しいものを すべて 選べ．

（ア） $c = -1$ （イ） $d = 1$ （ウ） $\psi_1(y) = -\sqrt{1-y^2}$ （エ） $\psi_2(y) = 0$

(3) $f(x, y) = \sqrt{1-y^2}$ のとき， I の値を次の（ア）から（エ）の中から選べ．

（ア） $-\frac{2}{3}$ （イ） $\frac{2}{3}$ （ウ） $-\frac{4}{3}$ （エ） $\frac{4}{3}$

(4) $f(x, y) = 1 - x^2$ のとき， I の値を次の（ア）から（エ）の中から選べ．

（ア） $\frac{3\pi}{16}$ （イ） $\frac{3}{8}$ （ウ） $\frac{3\pi}{8}$ （エ） $\frac{3}{4}$

【レポート課題：オンライン提出】

2 以下の設問に答えよ．

(1) 連続関数 $f(x, y)$ に対して， $I = \int_{-1}^2 dy \int_{y^2-2y-2}^{-y^2+2} f(x, y) dx$ の積分順序を交換せよ．

(2) $J = \frac{1}{2} \iint_D (x^3 + y - |x^3 - y|) dx dy$ ， $D = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1\}$ の値を求めよ．

(3) 空間図形 $C : y \geq 0, x^2 + y^2 \leq 1, |z| \leq y$ を平面 $y = t$ で切ったときの断面積 $S(t)$ を求めよ．

(4) (3) の C の体積 $v(C)$ を求めよ．

【自習用問題】

3 次の2重積分の値を求めよ.

(1) $\iint_D x^2 y \, dx dy$, $D: y \leq 1, y \leq x \leq 2y$ (演習書: 問題 6.1.2 (1) 改題)

(2) $\iint_D \sqrt{x^2 - y^2} \, dx dy$, $D: 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq x$ (演習書: 問題 6.1.2 (2))

(3) $\iint_D \frac{xy^2}{\sqrt{a^2 - x^2}} \, dx dy$, $D: x^2 + y^2 \leq a^2, x \geq 0$ (演習書: 問題 6.1.2 (3))

(4) $\iint_D \cos(x + y) \, dx dy$, $D: x \geq 0, y \geq 0, x + y \leq \frac{\pi}{2}$ (演習書: 問題 6.1.2 (4))

(5) $\iint_D (x + y) \, dx dy$, $D: x \geq 0, y \leq 2, \sqrt{x} \leq y$ (演習書: 問題 6.1.2 (5))

(6) $\iint_D \sqrt{x} \, dx dy$, $D: x^2 + y^2 \leq x$ (演習書: 問題 6.1.2 (6))

4 次の累次積分の積分順序を交換せよ.

(1) $\int_0^1 dx \int_{x^2}^{2-x} f(x, y) \, dy$ (演習書: 問題 6.1.3 (1))

(2) $\int_1^2 dy \int_{x^2}^{x^3} f(x, y) \, dx$ (演習書: 問題 6.1.3 (5))

(3) $\int_0^\pi dy \int_0^{1+\cos y} f(x, y) \, dx$ (演習書: 問題 6.1.3 (6))

5 次の2重積分および累次積分の値を求めよ.

(1) $\iint_D \sin \frac{y}{x} \, dx dy$, $D: 0 \leq y \leq \frac{\pi}{2}x, \frac{1}{2} \leq x \leq 1$ (演習書: 問題 6.1.4 (3))

(2) $\int_0^1 dy \int_y^1 e^{x^2} \, dx$

6 次の空間図形の体積を求めよ.

(1) $V_1: x \geq 0, x^2 + y^2 \leq 1, 0 \leq z \leq y^2$ (2) $V_2: x^2 + z^2 \leq 1, y^2 + z^2 \leq 1$

[手順]

- (a) 立体 V_k を, 平面 $x = t$ で切った断面図を yz -平面に描く. さらに, 断面が空集合にならない t の範囲も求める.
- (b) 同様に, 平面 $y = t$ で切った断面図を xz -平面に, 平面 $z = t$ で切った断面図を xy -平面に描く.
(断面が空集合にならない t の範囲も求める)
- (c) (a),(b) の3方向の断面のうち簡単なものに注目し, 体積が断面積の積分であることを利用して求める.